

ひらく、ここから。

**JINTAN**  
60th Anniversary

第3部

企 画

# 「未来を拓く灯となる」 人材育成に心血を注ぐ

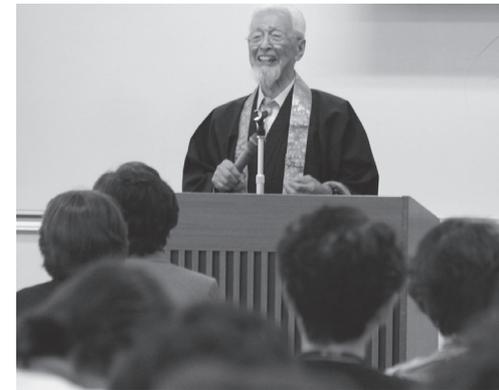
第3部  
企画

1

禿了澁学園長先生  
追悼

禿了澁学園長先生は、生涯にわたり仁愛学園の礎としてその発展に多大な貢献をされた。その温かなお人柄と、常に生徒・学生・教職員を導かれた姿勢は、学園の礎となり、今もお私たちの心に深く刻まれている。

ここに再掲する記事は、学園通信「仁愛」Vol.39(2020)「追悼特集」、Vol.41(2021)「故 禿了澁学園長先生を偲ぶ会」に掲載されたものである。60年史の記録として、多くの方々と共有できれば幸いである。



## 主な経歴

学校法人福井仁愛学園学園長

平成8年4月～令和2年2月18日

学校法人福井仁愛学園理事長

昭和47年12月～平成18年1月

仁愛女子短期大学長

昭和44年4月～平成18年3月

仁愛女子高等学校長

昭和40年4月～平成8年3月

仁愛女子短期大学附属幼稚園長

昭和44年4月～平成18年3月

社会福祉法人仁愛福祉会理事長

昭和49年4月～平成8年3月



武生学舎落成式(1982年)

## 主な受賞

従五位に叙位

令和2年3月17日付閣議決定

勲三等瑞宝章(私学振興功勞)

平成14年4月29日

福井県政功勞賞(教育功勞)

昭和58年5月3日

藍綬褒賞(女子教育功勞)

昭和58年4月29日

福井県知事表彰(私学教育功勞)

昭和46年11月12日



## 仁愛女子短期大学の設置

昭和30年代に入ると女子の高等教育志向は急速に高まり、先生は、まず当時高等学校に設置されていた被服専攻科のカリキュラムを短大の内容に近づけるとともに、地域の要望に答えて女子短期大学の設置を企画、たまたま福井市に隣接する森田町からの短大誘致の動きもあって、昭和39年1月、森田町天池地区(現福井市天池町)に校地を取得、それからは一気に短期大学(家政科)設置に向かって突き進みました。校舎建築、指導体制の確立など設置準備全般にわたり奔走し、翌年昭和40年4月に仁愛女子短期大学を開学しました。昭和57年4月には、武生市(現越前市)の誘致により武生キャンパスを開設し家政学科(現生活科学学科)を移転、福井キャンパスには保育科(現幼児教育学科)・国文科・音楽科を置き、県内の高等教育を大きく推進しました。(Vol.39)より



去る令和2年2月18日(木)に94歳にて往生された禿了滉学園長を偲ぶ会を、5月2日(日)に仁愛大学体育館にて執り行いました。

これは、生涯を通じ学園の発展のため全力で貢献された学園長のご功績に報いるため執り行うもので、新型コロナウイルス感染拡大の関係から1年にわたり学園葬を延期しておりましたが、この度、「偲ぶ会」として開催することとなりました。

当日は感染防止に配慮し、式事などは執り行わず、来場者の方には御焼香のみを行って頂くこと

し、理事長・各学校長等からの御礼を申し上げさせていただきます形となりました。

会場には学園長の在りし日を偲ぶ写真やゆかりの品々を展示したメモリアルコーナーを設置。また、遠方やご都合で会場にお越しいただけない方にも映像を通して会に参加いただけるよう、会場の動画配信を実施しました。

当日はあいにくの雨にも関わらず、会場には400名を超える多くの方にご参列いただき、学園長を懐かしむひと時となりました。(Vol.41)より

## 1. 生活科学学科

### ① コロナ禍の学習支援システム

令和2(2020)年度は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)対策のため、入学式が中止となり、前期授業は5月11日から全科目遠隔で開始された。生活情報専攻では、平成16(2004)年度から学習管理システムとして仁短Moodleを授業に活用しており、教育工学を専門とする教員が多かったため、FD委員会や情報メディア教育支援室等と連携し、全学的な学習支援システムの活用に貢献した。このとき、本学の遠隔授業として、①講義資料・課題提示(非同期型)、②収録内容オンデマンド配信(非同期型)、③リアルタイム配信(同期型)の3つを定めた。学生や教職員の使いやすさを優先し、Web会議アプリZoomの教育機関向けプランを新たに導入し、仁短Moodle及びGoogle Workspace for Educationを中心とした遠隔授業を推進した。

生活科学学科では、まず、令和2(2020)年3月の学科会議において、Zoomでの会議体験会を実施した。教職員が上記の学習支援システムに慣れるため、生活情報専攻の教員が中心となり、たくさんのFD研修(表1)を実施した。その他、仁短Moodleのコース「遠隔授業を考える」において、非常勤講師を含めたフォーラム「質問コーナー」の運用や情報共有等を行い、遠隔授業を考えるコミュニティづくりを目指した。

表1 2020年度のFD研修会「遠隔授業研修」

※ 幼児教育学科教員

日時	時間min	講師	方法	研修タイトル
4/ 8	60	野本	対面	専任対象Moodle入門講座
4/ 8	60	野本	対面	専任対象Moodle入門講座
4/ 8	60	田中	対面	専任対象Zoom体験会
4/27	90	田中	Zoom	Zoom & 遠隔授業ガイドライン講座
4/27	90	田中	Zoom	Moodle入門講座
4/28	90	澤崎	Zoom	動画利用(YouTube & Googleドライブ)講座
4/28	90	田中	Zoom	Moodle応用講座
5/15	90	田中 増田※	Zoom	遠隔授業の実践例
8/17	90	野本	対面	Moodle入門講座
8/17	90	田中	対面	Zoom入門講座
8/18	90	内田※	Zoom	Moodle中級講座
8/24	90	澤崎	Zoom	YouTube活用講座
8/25	90	田中	Zoom	Jamboard & Googleスライド講座



教職員紹介ビデオ

## ② コロナ禍の授業

令和2(2020)年度前期は全科目遠隔授業としたため、オンラインでは困難な食物栄養専攻の実験・実習科目等は後期開講に変更した。他の専攻においても、担当教員の希望により開講時期の変更を行った。

生活情報専攻では、授業開始前に、仁短Moodleのコース「令和2年度入学生」において、新入生オリエンテーション(教職員紹介、専攻主任あいさつ、授業・卒業要件・成績の説明の動画を閲覧後、感想の提出)を行い、オンライン・オフスアワー(Zoom)も4回実施した。

生活情報専攻1回生の初めて(2020年5月11日)の授業では、Zoomで学習支援システムの説明をした後、ブレイクアウトルームで自己紹介を行うグループワーク等を行い、遠隔授業に慣れると共に、友だちをつくる場の設計に配慮した。

生活デザイン専攻では、素材や道具を自宅へ送り、講義資料・課題提示(非同期型)で制作を行う科目がいくつか実施された。陶芸の授業では、自宅で各自制作した作品を、夏休みに仁短へ持ち寄り、絵付けや窯で焼く仕上げを行った。また、自宅で各自がデッサンを行う場合でも、Zoomで繋がり、仲間がいる感覚が重要だったようだ。

## ③ ポストコロナ時代の短大

本学の学生には、リアルタイム配信(同期型)授業よりも対面(面接)授業の方が動機づけの点で効果的なため、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)が落ち着いた後、リアルタイム配信(同期型)は基本的に実施していない。しかし、知識の蓄積及び反復が重要な科目においては、収録内容オンデマンド配信(非同期型)の学習効果は高いため、現在でもオンデマンド科目は実施している。

仁短Moodleの全学的な利用、オンライン・ホワイトボードを活用したブレインストーミング、発表動画の共有等、コロナ禍で始まった学習支援システムの活用は、令和6(2024)年度においても継続的に行われ、効果的・効率的・魅力的な授業が実施されている。

(文責:田中洋一)



陶芸の仕上げ

## 2. 幼児教育学科

### ① コロナ禍の授業

令和2年度(2020)は新型コロナウイルス感染流行拡大のため、前期授業は5月11日から全面的に遠隔授業で開始された。しかし、教育の質が保証できないとの理由から、前期の開講をあきらめ、夏季集中開講や後期の開講に変更した授業もあった。講義系の授業では、誰もいない教室でビデオカメラの前で講義をしたり、研究室のパソコンにむかって講義をしたり、前期はひたすらそのようなことを繰り返していた。演習系の授業では、慣れないZoomに戸惑いながら悪戦苦闘する日々であった。

教室に学生がいて、そこで講義をする。そんな当たり前だと思っていた教育ができなくなった日々は、換言するならば、「教育とは何なのか」と自問自答する日々でもあった。それは、当時の学生も同様で、1人でパソコンと向き合いながら授業を受ける日々は不安であったに違いない。だからこそ、いま、学校に教職員と学生がいて授業ができる日々を大切にしていきたい。

### ② コロナ禍の実習

幼児教育学科では、幼稚園教諭2種免許状および保育士資格取得のための実習並びに実習指導を実施しているが、令和2年度(2020)はさまざまな変更を余儀なくされた。

まず、通常6月に実施している幼稚園(指導)実習は秋に延期し、実習指導はそれに対応する時間割を組むこととした。さらに、大学として「実習における新型コロナウイルス感染症対策について」を策定・実施し、実習の受け入れ先に協力を依頼した。

感染拡大が落ち着きを見せた7月、授業も一部面接が認められる状況になったので、2回生は7月に施設実習事前指導、8月に保育所実習事前指導を1回ずつ面接で行った。また、入学してから遠隔での授業しか体験しないまま9月の附属幼稚園実習に臨むことになる1回生に対しては、担当者が特に丁寧に事前の面接指導を行った。

一方、施設実習は、実習先が障害者施設を含んでいるため、18名の学生が実習できないことになっ



誰もいない教室で授業の撮影をする教員の姿

た。また、8月頃から県内での感染者の増加が見られるようになると、9月の保育所実習予定園からも受け入れ不可の連絡があり、6名の実習ができないう状況となった。したがって、施設実習で受け入れ不可となった学生に対しては学内での代替授業を行った。保育所実習で受け入れ不可となった学生に対しては、仁愛保育園や本学と連携協定を結んでいる福井市・永平寺町の公立園に依頼し、実習を実施することができた。1回生の附属幼稚園実習も実習内容を柔軟に変更しながら予定通り終えることができた。

後期に入り、延期されていた2回生幼稚園(指導)実習が10月19日から実施され、無事に終わることができた。また、施設実習ができなかった学生は、学内での代替授業を遠隔で受講、課題レポートを提出し、全実習を終了した。2月の1回生保育所(参加・観察)実習以降、令和5年(2023)にコロナ禍が明けるまでは、実習園の振り替えや体調不良者の実習期間変更など、臨機応変に対応しながら実習を実施してきた。

### ③ コロナ禍の「じんあいこどものくに」

従来「じんあいこどものくに」は、近隣の親子連れや大学祭来場者が自由に参加できるイベントであったが、コロナ禍の数年間には大きな変更を余儀なくされた。

まず、令和2年度(2020)の「じんあいこどものくに」は、2回生が幼稚園(指導)実習の直前ということもあり中止した。令和3年度(2021)は仁愛保育園および仁愛女子短期大学附属幼稚園の保護者と子どもを対象に完全予約制で実施した。県独自の感染拡大特別警報や緊急事態宣言時、学科教員または学生に直近1週間以内にPCR陽性が出た場合は開催取りやめという条件付きであったが、2年ぶりに開催することができた。令和4年度

(2022)は混雑時の人数制限といった基本的な感染防止対策を講じながら実施した。

令和5年度(2023)以降、新型コロナウイルスが2類から5類感染症に引き下げられたことによって、学生の愛と子どもたちの笑顔が溢れる「じんあいこどものくに」が開催できている。

(文責:香月 拓)

### 3. 総合学務センター

#### ① 学び支援課

##### ア 令和2年度(2020)

令和2年(2020)1月に国内で初の新型コロナウイルス感染症患者が確認され、本学でも3月から学生の登学が禁止された。そのため3月13日に予定していた第54回卒業式は開催の中止を余儀なくされ、卒業生への学位記授与はクラスごとに行い、来学できない学生には郵送による授与となった。

4月2日に予定していた入学式も中止とし、その後のオリエンテーション、授業開始日を延期、再延期し、前期授業はインターネットを利用した遠隔授業にて行うことを決定した。

遠隔授業の形式としては、仁短eラーニングシステム(Moodle)を入り口とし、講義資料、課題提示による授業、収録内容オンデマンド配信による授業、リアルタイム配信による授業を行った。また、学生との連絡や教材の配付はメール、郵送にて行った。

遠隔授業実施に伴い授業計画が変更されることが予想されたため、「仁短Moodle」上の第1回から15回までの記述を最終的なシラバスとして学び支援課にて保存した。

7月から、2回生の一部の授業を面接(対面)で行うことが可能になったが、後期の授業は面接(対面)と遠隔の併用で行われた。

面接授業では発熱、風邪の症状がある学生は登学禁止とし、学び支援課に連絡することとした。また、面接授業では、教室の収容人数を半分以上とし、機械換気、マスク、フェイスシールド(学校から無料配付)の着用、手指消毒を徹底した。

授業終了時は学生による使用箇所の消毒と清掃を行った。

また、各教室、施設の入り口に利用者記録簿を設置し、学生の行動履歴の記録をとった。

令和3年(2021)3月16日、第55回卒業式は感染予防策を講じた上で、代表者のみの式典をE館4階演奏ホールで行い、式典の模様を動画配信(Zoom)にて各卒業式実施教室へ配信し、クラス別で学位を授与した。

##### イ 令和3年度(2021)

令和3年(2021)4月2日の入学式は、前年度の卒業式と同様、新入生のみで行い、保護者向けにその模様はYouTubeにて限定公開した。

日本各地で緊急事態宣言が出される中、福井県においても緊急事態宣言が発令され、4月末から1か月間、授業を休講とした。その後、感染者数の減少に伴い、面接授業を中心に授業を再開したが、時間割上、教室定員数50%収容とすることから教室数不足により教室が確保できない場合、県外に在住している等特別の事情がある一部の非常勤講師については、一部遠隔(オンライン)で実施した。

また、講義系の授業では、

- ・学生は縦・横方向に1席空けて着席し受講(収容人数を通常の1/2以下)
- ・学生と教員は、向かい合って授業
- ・学生の最前列と教員との距離を2m以上確保(最前列を使用しない等)
- ・授業中に、学生同士のディスカッションやグループワークを実施しない

実験・実習、演習系の授業では、

- ・学生は、原則、縦・横方向に1席空けの考え方に沿って着席し受講(収容人数を通常の1/2以下)

・学生は、1テーブルの中で、正面に向かい合わないように着席

等の感染防止対策を徹底し、対応した。

この年の6月と7月に、本学学生と教職員等を対象とした新型コロナウイルスワクチン接種を行った。令和4年(2022)3月15日、第56回卒業式は本学の体育館にて学生のための卒業式となった。また、保護者向けに式典の様態をライブ配信した。



ライブ配信で行うコロナ禍の入学式

### ウ 令和4年度(2022)

令和4年(2022)4月2日の入学式は昨年同様新生生のみの形で行い、保護者向けにはライブ配信を行った。

授業についても感染防止対策を講じたうえで原則、面接授業(対面授業)を中心に一部遠隔(オンライン)で行われた。

令和5年(2023)3月14日、第57回卒業式は本学の体育館にて行われ、保護者の方については、新型コロナウイルス感染防止のため、1家族1名までの出席とした。



感染予防対策をしたコロナ禍の演習授業

### エ 令和5年度(2023)

令和5年度(2023)になり、感染防止対策を講じたうえで原則、面接授業(対面授業)を実施することとなった。

令和5年(2023)5月8日付で新型コロナウイルス感染症は5類感染症に移行し、通常の授業が行えるようになった。

(文責:学び支援課長 木戸公恵)



コロナ禍の卒業式(E館4階演奏ホールにて)

## ② 入学・地域支援課

### デジタルを活用した広報活動の推進

#### ア オープンキャンパス

##### (ア)2020年3月オープンキャンパス

2020年3月21日(土)に開催を予定していたオープンキャンパスは、新型コロナウイルス感染拡大により中止を余儀なくされた。開催中止を決定したのが3月上旬であり、すでに2月上旬から参加者募集広報を開始していたため、即座にテレビCMやダイレクトメール等で開催中止の案内を行った。

##### (イ)WEB OPENCAMPUS 2020

対面でのオープンキャンパス開催の見通しが立たない状況であったため、ホームページ上で本学の魅力を高校生に伝える特設サイト「WEB OPENCAMPUS 2020」の制作に着手した。特設サイトでは、各学科専攻の学びの内容、特徴的な授業を写真やテキストで分かりやすく紹介した他、「体験コーナー～自宅で授業を体験!～」 「キャンパス見学」などの動画コンテンツを自分たちで制作した。動画制作は、幼児教育学科の増田翼准教授が中心となり、まったくノウハウのない状態から、機材を買い揃え、撮影や編集技術を手探りで学びながら行ったため、困難が伴う状況であった。さらに職員の交替勤務で一同に顔を合わせることができないなど、様々な制限があったが、5月12日にサイトを開設することができた。



WEB OPENCAMPUSトップページ画像

##### (ウ)オンラインイベント「Jin-tan LIVE2020」

5月になっても新型コロナウイルスの感染拡大の収束が見通せない状況が続いていたため、例年6月に実施しているオープンキャンパスは対面ではなくオンラインイベントに変更することとした。高校生が参加しやすいように参加者の顔や名前が表示されない「Zoomウェビナー」を使って、教員や学生、卒業生が出演するトークライブ形式で開催した。本イベントは、6月21日と7月19日の2回開催し、当日は、参加者からの質問に対してリアルタイムで返答するなど、ライブ配信ならではの企画を用意した。また当日の様子は動画編集を行い、後日、YouTubeに公開した。



Jin-tan LIVEのYouTubeサムネイル画像

##### (エ)対面でのオープンキャンパスの再開

###### (2020年8月)

高校生が実際にキャンパスに来学して大学の学びを体験することは、進路選択をするうえで重要な機会である。そのため、本学では8月2日に、参加者を3年生に限定し、各企画に定員を設けるなどの感染拡大防止策を十分に講じて、対面でのオープンキャンパスを開催することとした。

開催日直前の7月30日に福井県が新型コロナウイルス感染症の「感染拡大注意報」を発令したことにより、急遽、福井県及び石川県在住の高校生のみで実施するなどの混乱もあったが、高校3年生225名から参加申込があり、対面でのオープンキャンパスを求める高校生が多いことを実感した。



感染拡大防止策を講じたオープンキャンパス

## イ デジタル活用の加速

### (ア) YouTube「じんたん動画チャンネル」

増田准教授が中心となってさまざまな動画を制作し、本学公式YouTube「じんたん動画チャンネル」に順次公開した。2021年に公開した「保育者の一日幼稚園教諭篇」は20万回再生を越えるなど、大きな反響があった。



保育者の一日動画イメージ

### (イ) Instagram

高校生が最も活用している情報収集手段となっていたSNS「Instagram」を活用して、本学でいきいきと学ぶ学生の姿を積極的に発信した。入学・地域支援課職員が試行錯誤を繰り返しながら、継続的に投稿を行うことで、徐々にフォロワーが増え(2024年11月現在フォロワー1568人)、オープンキャンパス

等で高校生やその保護者から「Instagramを見た」との声を聞くことが増えた。「Instagram」は、大学案内や公式ホームページと並んで、本学の学生募集ツールとして重要な役割を担っている。



Instagramの投稿

### (ウ) LINEやZoomを活用した個別相談

コロナ禍において、対面でやりとりをする機会が制限されたため、LINEやZoomを活用した個別相談を開始した。特にLINEは、高校生が普段から使い慣れている身近なツールであるため、気軽に相談しやすかったようで、多くの質問が寄せられた。

### (エ) 「高校教員対象説明会」をZoomウェビナーで開催

2020、2021、2022年の3年間にわたり、高校教員対象説明会をZoomウェビナーで開催した。2020年に初めてオンラインで説明会を行った際には、参加の高校教員から「時間の都合がつけやすく参加しやすい」等の好意的な意見が多くみられた。なお、新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴い、2023年からは対面での開催に戻した。

(文責：入学・地域支援課長 後久真嗣)

### ③キャリア支援課

#### ア 学生支援

令和2年(2020)3月に学生の登学が禁止され、事業所側も採用活動を中断した。学生の不安を解消するため、直後からオンライン面談を導入、対応できない学生には電話やメールで支援した。5月になると事業所の採用活動も再開し、オンラインによる説明会や面接が行われるようになった。一方で、学生の登学禁止は続き、履歴書や証明書などは郵送で対応した。



オンラインによる個別相談(令和3年)

9月になって、学生が登学できるようになったが、オンラインとの併用が続き、令和4年(2022)になってようやくコロナ禍前の支援方法に戻している。なお、個別面談については、学生の利便性やオンライン面接対策として現在も対面方式と併用して運用している。

#### イ 学内合同説明会

生活科学学科の学生を対象にした学内合同説明会について、毎年本学の体育館で実施していたが、令和2年(2020)は新型コロナウイルスまん延防止の観点から中止、令和3年(2021)はいわゆる「3つの密(密閉・密集・密接)」を避けるため本学の複数講義室を会場に分散して実施した。



コロナ禍の学内合同説明会(令和2年)

しかし、令和4年(2022)は直前に国内罹患者が過去最大になったことにより急遽オンラインに変更した。令和5年(2023)以降は再び本学の複数講義室を会場に実施を続けている。



オンラインによる学内合同説明会(令和4年)

## ウ 保育職合同説明会

幼児教育学科の学生を対象にした学内合同説明会について、令和2年(2020)以降、新型コロナウイルスに罹患すると保育業界全体への影響が大きく、学生の実習にも関わることから開催できずにいた。しかし、人材不足に悩む事業所からの強い要望もあり、令和5年(2023)に福井県社会福祉協会が主催している学外の合同説明会に学生の参加を促し、学生と事業所の双方が満足する結果を得た。以降、継続事業になっている。

(文責:キャリア支援課長 高森 武司)



保育福祉フェア(令和6年)

## 4. 事務局

令和2年(2020)2月28日、新型コロナウイルス感染症対策として、全国の小中高等学校等に対し臨時休業の方針が内閣総理大臣より示され、福井県は3月2日から24日までの休校を決定した。

以下に主な感染防止に係る取組みについて記す。

### ① 卒業式、入学式

卒業式は急遽中止となり、学科・専攻ごとに時間と場所を分散して学位記を授与した。式典は実施できなかったものの華やかな袴姿の卒業生でキャンパスは彩られた。

入学式については、数回の協議を重ね1～2週間の延期開催を検討したが、4月3日福井県が非常事態宣言を発出、5月6日までの休校継続を決定したため、中止とした。新入生には、5月1日からオンデマンド視聴によるオリエンテーションを開始、5月16日から1・2年生共に遠隔授業を実施した。

### ② 学生への緊急支援対策

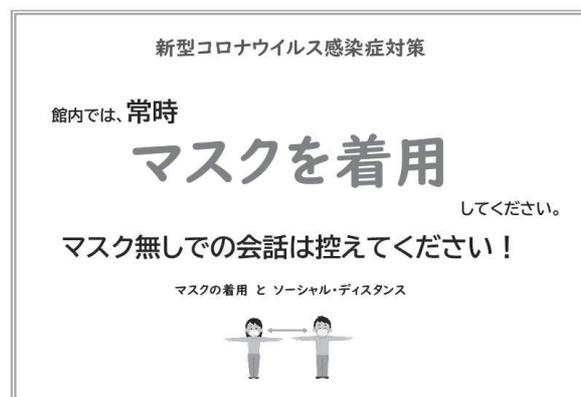
令和2年(2020)5月、全学生を対象にオンライン授業の受講環境整備支援として2万円、自宅外学生には家賃補助支援として3万円を支給した。また令和4年度(2022)からは食事支援としてカフェテリアでの「100円ランチ」の提供を開始した。

### ③ 面接授業の開始に向けた対策

令和2年(2020)7月より、実験・実習・実技科目の一部を対面授業で実施することになった。安全な学習環境を確保するため、文部科学省のガイドラインに基づき、以下の対策を講じた。

- ・ 教室の机・椅子の間引きにより収容人数を半減
- ・ 各館入口に非接触検温器と手指消毒剤を配置
- ・ 全教室に手指消毒剤、備品用消毒剤(机・椅子用)、ティッシュペーパー、ごみ箱を配置
- ・ カフェテリアに飛沫防止用の仕切り板を設置

また、「コロナ渦においても学生の安全を確保したうえで、2年間の修業年限で学位(短期大学士)及び免許・資格等を取得できるよう、最善の学びの機会を提供する」という本学の基本方針及び学納金(授業料・教育充実費)に関する学長メッセージをホームページで発信。さらに、授業の実施や中止の判断基準、学生・教職員の行動方針をまとめたマニュアルを危機管理委員会において作成し配付した。



感染防止対策の学内掲示

#### ④ 新型コロナワクチン接種

医療従事者、高齢者、基礎疾患のある方々へのワクチン接種が進む中、文部科学省の指針に基づき、大学拠点接種が促進された。本学では福井総合病院の医師、看護師等の協力を得て、ワクチン接種を実施した。

第1・2回は大型バス3台で学生・教職員を福井医療大学まで送迎。第3・4回は厚生労働省のマニュアルに従い、学内に接種会場を設置し、実施した。なお、本学の学生・教職員に加え、附属幼稚園や仁愛保育園、仁愛高校、関係業者の希望者にも接種機会を提供した。



本学でのワクチン接種実施

表1 ワクチン接種の実績

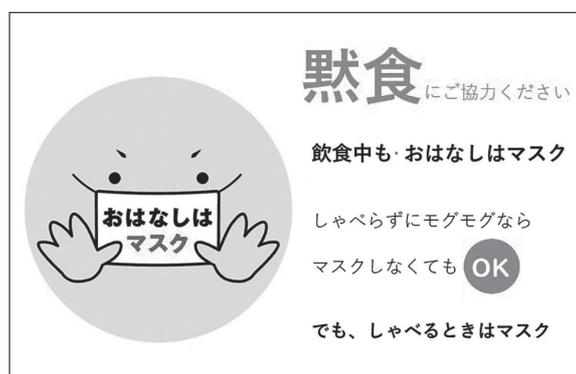
No.	日程	会場	接種総数	内、学生数 (学生の接種率)
第1回	令和3年6/24・6/28	福井医療大学	600名	375名(81.2%)
第2回	令和3年7/27・7/30・8/10	福井医療大学	600名	372名(80.5%)
第3回	令和4年3/8・3/9	本学	412名	252名(54.5%)
第4回	令和4年12/2	本学	116名	49名(11.5%)

#### ⑤ 感染者の把握とPCR検査

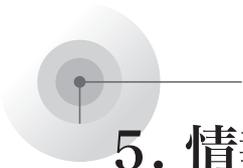
感染者または濃厚接触者となった場合の連絡フローを学生・教職員に周知し、正確な情報把握に努めた。学内での接触による感染が疑われた場合は、職員が総出で該当教室の消毒を実施した。また、集団感染の疑いがある場合は、保健センターの指導のもと、学内でPCR検査を実施した。

感染者情報は、公式HPで公表するとともに、福井県及び文部科学省へ報告した。令和5年(2023)5月8日新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行するまでに、総務課で記録した感染者数は、学生126名、教職員11名であった。

(文責:熊木雅代)



「黙食」啓発のポスター



## 5. 情報資源センター

### ① 情報メディア教育支援室

本学では従前からMoodleという学習管理システム(LMS)を導入しており、教材の配布や課題の管理がオンライン上で完結することができていた。2020年初頭より新型コロナウイルス感染症が流行し始めた。コロナ禍では遠隔授業が求められ、Moodle以外に動画の作成方法や他のツール(YouTube、Zoomなど)も使いこなす必要があり、教員に大きな負担がかかったことは想像に難くない。幸い、インターネット回線を1GBに増強していたため通信環境のストレスは免れた。

その後、新型コロナウイルス感染症が5類に移行する2023年までの数年間、対面授業とオンデマンド型授業の併用が求められた。情報メディア教育支援室では、教職員向け講習会等を通じ、Moodleや各種クラウドサービスの操作方法の普及に努めた。結果、全学的にMoodleを活用するようになり、今では本学の基幹システムとして重要な役割を持つようになった。

対面授業とオンデマンド型授業のハイブリッドな授業形態に対応することは、教育にも新しいイノベーションをもたらしたといえよう。反転学習という事前にオンデマンド型授業を受け、学生自身が学んだ上で、対面授業が開催されたときに先生に質問し理解を深めるという学習方法がある。対面授業のみだと、教員があえて授業動画を作成することはあまりないと思われるが、教員は授業動画作成を通じ、分かりやすく伝えるため、内容をより吟味することになる。学生にとっては、オンデマンドで繰り返し授業内容を確認することができる。さらに対面授業に戻った際は、オンデマンド型授業での不明点を教員に直接確認でき、理解が深まる。このことは学生と教員双方にメリットを感じる場所である。

現在、新型コロナウイルス感染症の影響は減少した。振り返ると、これほどDXが加速した時代はなかったのではないか。情報メディア教育支援室ではこれからも、時代に適応し、その時の最適なサービスを提供していけたらと思う。(文責:辻岡和孝)

## ② 附属図書館

新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、図書館を閉館していたが、その臨時措置として、学生・教職員対象に令和2年(2020)5月7日(水)より、郵送で図書館の貸出を実施した。貸出冊数は一人5冊、送料は無料、返却日は登学再開日とした。利用数は3件であった。

6月1日(月)からは、学生の学習及びキャリア支援を目的に事前申込制の開館を実施した。平日9:00~12:00、13:00~16:00、土・日は休館とした。また、貸出のみで、長時間滞在することや、館内閲覧は不可とした。6月1日~9月24日までの利用者数は、80名であった。

また、電子ブック2種類(「丸善e-booklibrary」と「LibrariE(ライブラリエ)」)を「仁短Moodle」上に置き、自宅から閲覧できる旨を学生・教職員に周知した。

令和2年(2020)年の後期から図書館は通常開館したが、入室・退室記録簿の記入を義務付けた。これは、令和4年度(2022)まで続いた。

また、開館に伴い、閲覧席を間引きし、78席から58席にした。そして、カウンターや閲覧机には、飛沫

防止パーテーションを設置し、感染対策を講じた。令和元年(2019)8月23日に導入した「自動貸出返却機」は、非接触で図書の貸出・返却ができるため、新型コロナウイルス感染拡大防止対策の一助になった。

学外者の利用は、福井県が「福井県感染拡大警報」を解除した令和3年(2021)10月14日から再開した。



図書館カウンターのパーテーション



閲覧席のパーテーション



入室・退室記録簿を出入口に設置

(文責:竹下真弓)

## 3 教職員からの一言メッセージ

### 仁愛女子短期大学

令和7年(2025)3月31日 現在

#### 内田 雄

私にとって仁愛女子短期大学は専任教員として勤務した初めての大学です。大学教員としての様々な業務に携わり、大きく成長する機会を頂けたと感じています。ここ10年を振り返ってみると、新型コロナウイルス対応や少子化の影響など大学業界を取り巻く環境は大きく変化しました。今後の多様な変化にも対応できるよう大学とともに精進していきます。

#### 大西 新吾

「ケンとメリー〜愛と風のように〜」は1972年にBUZZのデビュー・シングルとして発表されました。

その曲の歌詞の中に、「道のむこうへ出かけよう 今が通りすぎてゆく前に」というフレーズがあります。私はこのフレーズが大好きです。

60年という歳月の一瞬一瞬に「今」があり、その瞬間は通りすぎてしまいましたが、仁愛女子短期大学にかかわった方々の素敵な思い出として積み重なり「道」となっていることでしょう。

そしてこれからも。

#### 香月 拓

60周年おめでとうございます。60周年の同期には「五木ひろしデビュー60周年」や「オロナミンC発売60周年」などがあるそうです。福井の至宝や日本を元気にし続けてきた飲料と同期とは恐れ入ります。60年と言えば還暦なので、今年度は赤いものをひそかに身につけて過ごします。とはいえ、まだまだ老け込まずに、これからも若々しく元気に福井を盛り上げていきましょう！

#### 上屋 敷 仁 美

60周年、還暦おめでとうございます。私自身職員としても、学生さんをはじめ色々な出会いと思い出でいっぱいの10年でした。ありがとうございます。これから始まる第2の仁愛女子短期大学も楽しみにしております。

#### 川崎 恵理

自分の同級生が卒業生であるだけでなく、同級生や同僚のご息女が卒業生であったり、在学中であったりすることを耳にするたび、この60年という歴史の深さを感じます。長い歴史のほんの一部にかかわることを幸せに思いながら、この仁愛女子短期大学で学生と共に楽しく学びたいと思います。

#### 木内 貴子

開学60周年に際して歳月を重ねることの深みを改めて感じています。私にとっては、学生から始まり、時々立場を変えながらも背中を押してもらい育てていただいた大切な場所です。めぐり合わせに感謝しながら、今、たくさんの可能性と元気な笑顔を見せる学生を支え、そして繋げていけたらと思っています。次の十年に向けて、仁愛女子短期大学の一層の輝きを願うとともに、母校の発展に貢献できるよう私自身も日々努力したいと思っています。

#### 木戸 公恵

仁愛女子短期大学を卒業し、こうして今も仁愛短大に関わっていることに正直驚いています。あれから随分と時間が経っているはずなのに、学生の頃の思い出は鮮明です。あの頃見ていた景色と今見える景色は随分変わりましたが、学生達の笑顔は変わらないように思います。これからも学生たちの笑顔が絶えない学校であって欲しいと思っています。

## 木下由香

仁愛女子短期大学の開学60周年、おめでとうございます。ちょうど20年前は私が専任教員として勤め始めた年で、40周年記念事業として、幸運にも他の音楽学科教員とハーモニーホールで演奏させていただきました。その時のことは今でも深く心に残っております。今後益々短大が発展していくことを願いつつ、微力ながら音楽面で盛り上げていけるよう、力を尽くしていく所存です。

## 小角佳子

60周年という記念すべき時に、職員として携わることができ大変嬉しく思っております。

これまで、福井キャンパスと武生キャンパスの統合、50周年記念事業などの節目節目に関わることができたことはとても貴重な経験となりました。

これからもずっと、学生のみなさんが楽しく学び、笑顔あふれる仁短でありますように。

## 熊木雅代

「ジタンにプログラミングの面白いコースが出来たぞ。ここに行きな。」とは当時工学部生の兄。「えっ、何それ?」と、その頃の短大としては最先端の学びだったろうに、無知な私は只々好奇心の塊で入学しました。Bit? Byte? 何その連続でしたが、今まで聞いたことも無い異次元の事柄に触れる度、高揚感を覚えたものでした。それから、職員へと立場は変わり早40年。どれだけ多くのワクワクを提供できたでしょうか。

## 古定真子

開学60周年おめでとうございます。私は2025年4月で入職してから10年が経ちますが、60年の節目の年に職員の一員であることを嬉しく思います。先人の方々に感謝の気持ちを忘れず、今後の発展に微力ながら貢献したいと思います。

## 黒田亜澄香

県内の様々な場所で仁短の卒業生だという方によく出会います。福井県の女性にとって仁愛女子短期大学は馴染み深い場所なのだとその都度思うことができ嬉しく感じます。仁愛女子短期大学で過ごした期間は短いですが、そんな福井県に馴染みがある場所に卒業した後も関わることができてとても嬉しいです。

## 小林恭一

年史編纂にあたりこの一言メッセージを企画したのは、何を隠そうこの私です。皆様の中には訝しく思われる方もおられるかと存じますが、この10年を支え、育てこれられたのは皆様自身にほかなりません。そのことを後生に残したいと思ったからです。

## 黒田 楓

60周年という節目に自分がこの場所にいられることを嬉しく思います。仁短がたくさんの人に愛される学校になるように日々仕事に励んでいきます。これからも仁短の卒業生がここ福井で活躍する姿を見ていたいのです。だんぜん、じんたん!

## 齋藤康紀

開学60周年を迎える記念すべき年に本学職員の一員として、学校業務に携わることができ、大変嬉しく思います。

本学の功績により、女子教育や幼児教育を始めとした福井仁愛学園の特徴・イメージが確立したと言っても過言ではないと考えます。

着実な信頼と実績の積み重ねにより、一般的には本学は女子教育や幼児教育等が強い短期大学とのイメージが定着しています。そして、本学の特色の一部はグループ内の仁愛大学にも引き継がれており、四年制大学の強みを活かした多様な教育を展開しています。

しかし、学生・生徒・園児数の減少に伴い学園全体を取り巻く環境は年々悪化しており、厳しい学校運営が続いています。

今後は本学の特色や強みを活かしつつ、大学・高等学校・附属幼稚園と連携し、更なる魅力ある学校作りに貢献したいと考えています。

## 佐々木美佳

仁愛女子短期大学の還暦のお祝いに立ち会えること、感無量の思いです。私自身、生徒・学生時代を含め「今日一日の慎み」を唱えて35年が経過し、周年記念も4回目となります。30周年、音楽学科の副手  
40周年、学生部  
50周年・60周年、事務局

諸先生方と学生・卒業生の皆様に育てていただいた30年でした。仁愛女子短期大学での学びは、21,000人の卒業生の土台となり現在の活躍に繋がっていると感じています。

更なる10年を目指して、仁愛女子短期大学のお役目を果たす一助となれるよう努めたいと思います。

## 高橋久美子

仁愛女子短期大学の開学60周年おめでとうございます。

この学校で学ぶ期間は2年間と非常に短く、忙しい日々だろうと思いますが、社会にデビューするために必要な教養や資格、技量を身に着ける手助けを得られる大切な場・期間であると思います。

現在短大で仕事をしている私も、何らかの形で次世代育成の協力ができているのであれば嬉しいです！

## 重村幹夫

建学の精神に基づいた一人一人を大切にしている温かい校風で働いていることを感謝します。

## 竹下真弓

仁愛女子短期大学では、学ぶことの楽しさを教えてくださった恩師との出会い、何でも話せる友人との出会い、そして、卒業後も勤務させていただき、多くの方々との貴重な出会いに感謝しながら日々を過ごしております。近10年間は、図書館に勤務し、学生や教職員の皆様がより良い学びの場を得られるよう努めてまいりました。今後も、さらに充実した学びの環境を提供できるよう努力してまいります。

## 島田貢明

近10年で最大の出来事はコロナ禍により対面授業が不可能になり、オンライン授業が必須となったことです。特にMoodleやZoomを使った授業に苦労しましたが、FD講習会のおかげで何とか克服することができました。教職員はもちろん受講した学生の皆さんも大変だったと思います。AIの活用も必須となっている現在、本学は60周年を迎え、Society5.0に対応する21世紀型の人材育成が喫緊の課題と感じています。

## 辻岡和孝

8月に高校の同窓会に参加しました。すると、同級生の中に仁愛女子短期大学OGが沢山いたことが確認でき、改めて地域に溶け込んだ短大であることを再認識しました。その短大が創立60周年を迎えます。この特別な年に心からの祝福を送りつつ、歴史ある短大の教員であることに一層の緊張感を覚えています。

## 高木康之

知識や経験に長け優れた技量を身に備えた生活科学学科構成員をはじめとする関係者各位から刺激を受け、おかげさまで思考の筋道が広がりました。この経験を今後の生き方に活用したいと思います。

## 坪田久瑠実

仁愛女子短期大学を卒業した私が、最後の食物栄養専攻生を見送る立場になることは非常に残念です。ですが、短大は私に大切な繋がりを残してくれました。同窓会を開催したことで多くの卒業生が活躍していることを再認識することができました。これからも、仁愛女子短期大学は女性の可能性を引き出し、輝かせる場であり続けて欲しいです。

## 富田桃子

開学60周年おめでとうございます。学生時代とは違い助手として学生と共に実験や実習を行う中で、栄養士として社会に出てから役立つ知識がたくさん詰め込まれていることに気づきました。食物栄養専攻に携わることができたことや短大でのたくさんの出会いに感謝しています。これからも学生のみなさんにとって素晴らしい場所でありますように。

## 中谷智恵美

学生と接することの多い学び支援課(教務課・学生生活課)に配属されて早9年が経とうとしています。学生との年の差は年々開きますが、距離は近くなっているのを感じます。これからも、学生が仁短で充実した学生生活を送れたと思えるよう、職員として業務に励みたいと思います。

## 仲村 愛

仁愛女子短期大学開学60周年おめでとうございます。卒業生として、卒業後もこの学校に携わる事が出来て大変嬉しく思っています。キャンパスに響き渡る女子達の明るい笑い声、若さにいつも元気をもらっています。いつまでも大好きな学校です。今後の仁愛女子短期大学の益々のご発展をお祈り申し上げます。

## 中谷仁美

仁愛女子短期大学に異動してきて7年が経過し、2025年には8年目に突入しました。これは前職の在籍期間を超え、私にとっても新しい一歩を踏み出すこととなります。これからの新しい門出に彩りを添えられるように、日々精進してまいりたいと思います。

## 後久真嗣

私は1999年に入職させていただいて以来、20年以上、仁愛女子短期大学に育てていただきました。

その間、長く入試広報に携わらせていただいております。いきいきと学ぶ学生や社会で活躍する卒業生の姿を発信してきました。学びの内容は時代の変化に対応してアップデートされていますが、仁愛兼済の精神のもと実践される仁短の教育は変わっていません。時代が変わっても変わらない仁短の良さを、これからも発信し続けていきたいです。

## 野本尚美

仁愛女子短期大学の大きな節目に立ち会えることをとても幸せに感じています。これからも学生一人ひとりに寄り添い、共に成長できるよう、微力ながら精一杯尽力したいと思います。開学60周年おめでとうございます！

## 橋本亜優美

仁愛で学び、仁愛でお勤めをさせて頂き、かけがえない時間を過ごさせていただきました。

仁愛兼済のできている方に囲まれて、本当に幸せな空間が広がっております。

笑顔と感謝、愛があふれている仁愛女子短期大学がこれからも長きにわたり続いていくことを心から願っております。

## 福岡昭雄

あらためて人生を振り返ってみると、教育学部を卒業し、教師にはなれませんでした。教育機関で働いていることに何か不思議な縁を感じています。そして今、仁愛女子短期大学が開学60周年記念の年に職員として在籍出来たことは、非常に光栄に思っています。

60年の長きに渡り、地域に貢献出来る人材を輩出し続けている本学の功績は本当に素晴らしいです。今後も微力ながらその役割を担う一助になれるよう頑張ります。

## 前田 敬子

敦賀市立小学校教諭、福井県立高校教諭の経験を経て、仁愛女子短期大学に流れ着いた、そんな私には「仁愛特有の美しさ、仁愛らしさ」がわかります。特に、仁愛女子短期大学を卒業され、今なお母校の本学に勤務される職員の方々の間に、仁愛の美しい教育理念が深く根付いていることを感じます。ここに生きる人々が心を一つにして組織を支え、清らかな息を吹き込み、温かな命の灯をともし続けてきたことを尊く思います。

## 牧野 みゆき

仁愛女子短期大学が開学60周年を迎えることは、これまでの変遷を振り返るととても感慨深いものがあります。武生学舎の家政学科(現生活科学学科)がキャンパス統合で福井に移って現在に至りますが、これからも歳月を経ても「変わらない仁短」の部分と、時代の流れに合わせて「変わりゆくJINTAN」を見守り続けていきたいと思えます。

## 松村 羽純

還暦という節目を、短期大学の一員としてお祝いできることを嬉しく思います。次は古希です。短期大学のカラーである“紫”で盛大に古希祝いができるよう、さらなる発展のために尽力していきたいと思っています。

## 森 恵見

仁愛女子短期大学60周年、心よりお祝い申し上げます。助手として岸松先生にご指導いただいた日々は、私の人生の大きな支えとなっています。短期大学の更なる発展をお祈りしております。

## 吉原 聡美

仁愛女子短期大学、60周年おめでとうございます！これまでの素敵な思い出に感謝しつつ、これからもみなさんとワクワクする未来を作っていきましょう！新たな挑戦を楽しみにしています！

## 吉村 正照

この10年を振り返ると、まずはデザイナーとして仁短公式ホームページの制作・運用支援に携わってきたことを思い出します。2019年には子が附属幼稚園に入り2023年までお世話になりました。コロナ禍の真っ只中ではありましたが、節分の鬼役を拝命いただくなど幼児教育学科の先生方とも交流させていただきました。2024年4月からは、森田に生まれ森田に育った私が仁短に。たくさんのご縁を感じます。

# 3 教職員からの一言メッセージ

## 附属幼稚園

令和7年(2025)3月31日 現在

## 岩井 知子

仁愛女子短期大学を卒業後、幼稚園教諭・保育士として15年勤めました。怪我により現場を離れることとなりましたが、ご縁があり実習生としてお世話になった仁愛幼稚園に事務職員として戻ることが出来ました。たくさんの方の繋がりのなか「今」があることに感謝を忘れず、これからも歴史を紡ぎ続ける仁愛幼稚園の一糸として尽力したいと思います。

## 上 嶋 莉 恵

幼稚園の先生になりたい!という夢を叶えるため、短大に入学しました。充実した実習や講義を受け、現在その夢を叶えることができている!私の母も短大出身で、2世代に渡りお世話になりました。感謝の気持ちでいっぱいです。今後も、短大で教えて頂いたことや、先輩方から学んでいることを胸に、自分が目標とする保育者を目指して頑張っていこうと思います!

## 各 務 夕 子

仁愛女子短期大学開学60周年を迎えられました事を心よりお祝い申し上げます。短大・幼稚園と仁愛との縁も長くなり、再び幼稚園で勤めさせていただいています。まがりなりにも30年以上、子ども達と素敵な時間を過ごせるのは仁愛に出会えたからこそ…。短大で基礎を学び、幼稚園では教育者として社会人として女性としてどう生きれば良いのかを教えてくださいました。私にとって本当に大切な場所である「仁愛」です。これからも仁愛という学び舎が永遠であること、増々のご発展をお祈り申し上げます。

## 太 田 智 美

私自身、この仁愛女子短期大学で幼児教育の道を目指して学んだ学生の一人です。学生の頃毎日唱えた「今日一日の慎み」は今も私の中で教訓となっているように思います。ご縁があって仁愛幼稚園に勤務させてもらうことになりましたが、日々子どもたちと向き合う中で、子ども一人ひとりを愛おしいと思う気持ちや子どもと一緒に学びたい、成長したいという気持ちだけは昔と何ひとつ変わってないように思います。今後も心と身体のバランスを図りながら楽しく勤めていきたいです。

## 笠 松 里 奈

開学60周年誠にありがとうございます。10年前、教育者としての第一歩である幼稚園実習で、旧園舎にて仁愛幼稚園の温かな保育を学び経験しました。新園舎で教員として勤めることになり、今は学んだ温かな保育を目指して精進しています。そして先輩方が継承してくださった伝統を次の10年に伝えていくべく、これからも笑顔・つながり・感謝を忘れずに毎日を過ごしていきたいと思います。

## 小 川 美 沙 希

「近10年史」ということで…夢だった幼稚園の先生として仁愛附属幼稚園に勤務し10年になりました。長かったようで短かった日々は、子どもたちや保護者の方、先生方から学ぶことばかりでした。これからも仁愛学園と共に、私自身も成長していけるよう努力したいと思います。

## 木 下 奈 々 美

仁愛にお世話になり、子どもの頃は、故・学園長先生をおじいちゃん先生と勝手に呼んでいました。高校はスポーツに熱中し、短大は友達と遊んだり、アルバイトやボランティア等をしてほぼ家にいませんでした。今は幼稚園で勤務して、園児と共に充実した日々を送っています。この、ご縁のある場所で、たくさんの人たちに出会い、いろいろなことを経験させてもらいました。これからも、仁愛を通して繋がる人は私にとって宝物です。

## 替 地 綾 佳

約10年前、仁愛附属幼稚園が新しい園舎になるとともに夢だった幼稚園教諭への一歩を踏み出しました。母から2世代に渡り、学生として通いお世話になった仁愛女子短期大学。今では、子どもたちの成長を見守ったり、学生と共に学んだりする立場となりました。これからもお世話になった仁愛学園の建学の精神や仏様の教えを多くの人に伝え、つなげていきたいです。

## 木 村 育 美

「この場所から夢への第1歩が始まるんだ」とワクワクしながら短期大学に入学した19年前…。まさか、自分が仁愛学園の一員として60周年という大きな節目の年を迎えることなど想像もしていませんでした。これまで沢山の先生方にご指導いただき今の自分があることに感謝しながら、今後も自分のやるべきことをしっかりと果たしていけるよう努力していきます。仁愛学園と一緒に素敵な成長を重ねていけるようこれからも全員で“つながりあって かがやきあいながら…☆”

## 小林千尋

開学60周年、おめでとうございます。50周年の時には学生として式典に参加し、テノール歌手の秋川雅史さんと一緒に合唱したことを覚えています。卒業後は附属幼稚園の教諭となり、子ども達と一緒に遊び、学びながら自身も成長していくことを目標に歩んできました。コロナ禍では、保育の在り方が問われましたが、先生方といるいろいろな考えを共有しながら乗り越え、助け合いながら過ごす大切さを改めて実感しました。また、在学中にお世話になった短大の先生方との繋がりも続き、そのご指導や励ましが今でも力になっています。これからも、この温かい学びの場が受け継がれ、益々の発展を願っています。

## 佐竹 了

200を超える園児数が半減近くにまでのこの10年。幼稚園教育のニーズより保育ニーズの高まりが背景の中、敢えて幼稚園を選んでくださる方によって一層仁愛らしさが強調されてきた10年とみたい。新卒の姉が勤務させていただいた仁愛幼稚園に、弟の私も勤務することなど、誰が予想しただろう。そんな姉も年齢70を超えた。60周年を共に祝いたい。

## 嶋橋理恵

開学60周年、誠にありがとうございます。

私は、短大を卒業し、二十数年過ぎました。その間、附属幼稚園に勤務した後、出産を経て、附属幼稚園以外でも保育士として働き、再び附属幼稚園に戻ってきました。再び、仁愛学園で働かせていただくことで、短大で教えていただいた『感謝の気持ちをもって過ごす』ということ意識して、園児と過ごすこと・教師間で協力しながら働くこと・息子、娘に感謝の言葉を伝えること、これからも意識しながら生きていきたいと思っています。

## 高石まゆ

60周年おめでとうございます。仁愛女子短期大学で幼稚園教諭になるために一から教えていただき、たくさん学び、その全てが仁愛幼稚園で働く今につながっています。自分の学びが、子どもたちと過ごす日々を活かしていることに喜びを感じます。これからも歴史が続いていけるように、微力ながら私も頑張っていきたいと思っています。

## 田中千晴

開学60周年おめでとうございます。学友、ご指導いただいた先生方、幼稚園を始めとする職員のみなさん、子どもたちに出会うことができ、私自身も成長させていただいている仁愛学園に感謝の気持ちでいっぱいです。これまでのご縁を大切に、微力ながらなにか恩返しができるように、これからも過ごしていきたいと思います。

## 田中真由美

木の温もり一杯の旧園舎、光あふれる新園舎どちらも私にとって何年たっても大切な宝石箱です。これからも感謝の気持ちを忘れる事なく出会いや豊かな気持ちを大切にし学ばせていただきたいと思っています。そしてつなごうの輪を大切に笑顔いっぱい頑張りたいと思います。

## 中村かおる

この10年間で仁愛幼稚園は、幼稚園教育要領改訂に伴う内容の見直し、連絡帳のデジタル化、朝預かりの開始など、時代に合わせた変化を経験しました。しかしその中で、学園長先生から教わった「にこにこ、げんき、ありがとう」を大切にする保育は変わっていません。短大と同級生の私ですが、感謝と初心を忘れず、後少し幼稚園に携わっていきたいと思っています。

## 野田裕実子

私は今年度より看護師として仁愛幼稚園に勤務しています。もちろん幼児教育に関しては素人です。パワーいっぱいの園児達に押されつつ、私のほうが元気をもらっています。また幼稚園の先生たちが子ども達の笑顔を守り、つながりを大切にしている姿には尊敬の眼差しを送る日々です。そんな素敵な仁愛幼稚園は60周年という歴史と伝統に裏打ちされたものだったのか…としみじみ納得してしまいました。60周年、おめでとうございます。

## 平瀬 杏香

60歳おめでとうございます！この記念日を迎えることが出来たのは、これまで本当にたくさんの方々の努力と支えがあったからだと思います。私の知っている幼稚園は、長い歴史の中のほんの一部ですが、年々、日々、変化していると思います。常に最善を考え、みんなで協力し、やり遂げてきました。これまでの経験を活かし、今後も一生懸命頑張りたいと思います！

## 森下 和代

60周年おめでとうございます。私が卒業して30年超、令和7年春、娘が卒業しました。その間に息子と娘が附属幼稚園を卒園し、その後私が附属幼稚園の職員として勤務させて頂いています。80周年を迎える頃には、孫が入学させて頂く…かも。見届けられる様、健康第一！！

## 藤井 晃代

仁愛幼稚園に勤めさせていただいて20年。第一印象は「ありがとうがいっぱいの園だなあ」でした。いろんな人がいる場所で「ありがとう」を自然に笑顔で交わっていました。とても素敵だ！と強く印象に残っています。素敵な皆さまと同じように、私も感謝の気持ちを言葉で表すよう心がけてきました。「ありがとう」の花が咲く園を誇りに思い、これからも咲き誇ることを願っています。

## 山見 香苗

「ここでなら、思いっきり遊べそう！」25年前に2歳の長女と仁愛幼稚園を訪れ、園庭の広さに感動した主人の言葉で入園が決まりました。大人になった娘達は今も園での思い出を笑顔で懐かしみ、保護者だった私は職員として大好きな仁愛に携わらせて頂いていることに感謝しています。ロバート・フルガムの言う様に人生に必要な知恵を砂場で学ばせて頂き、今度は恩返しの気持ちで今の子供達が大人になった時笑顔で園生活を振り返ってもらえる様これからも一緒に楽しく過ごして行こうと思います。

## 干野 利男

60周年おめでとうございます。私はバスの運転手を始めて35年、その後仁愛附属幼稚園にお世話になり10年あまりたちました。幼稚園では小さな子供達のあどけない笑顔や元気で遊んでいるのを見て、自分が本当に癒されますし大きな力をもらっています。もう少し子供達の元気をもらって頑張っていきたいと思っています。

## 吉田 朋美

子どもの頃大好きだった幼稚園、大いにはしゃいだ学生生活、大変お世話になった“仁愛っ子”のひとりです。在園・在学中の幼稚園、短期大学とは外観もお世話になった先生方も変わりましたが、これまでたくさんの方々によって受け継がれ、名を残されてきた歴史や伝統の重みに尊敬と感謝に堪えません。これからもあゆみを止めることなく新しい歴史が刻まれる瞬間に立ち会えるよう幼稚園の職員として、自身の務めを果たし、努力を重ねていきたいと思っています。

## 皆川 孝志

前職を定年退職し、仁愛女子短期大学附属幼稚園で働かせていただいています。子どもたちや先生方とのふれあいを通して、毎日とても楽しく充実しています。